働き方を考える
～ノー残業デー～

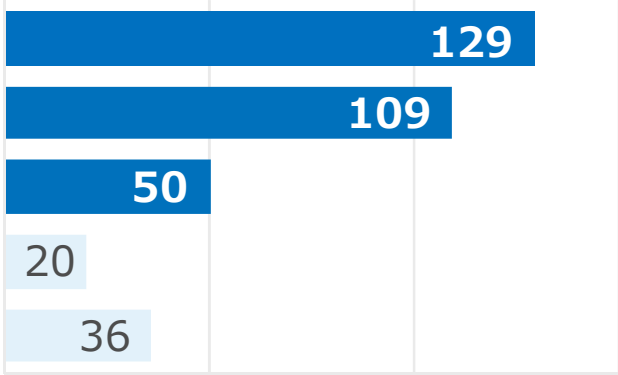
平成29年7月27日

（一社）建設コンサルタンツ協会近畿支部
男女共同参画委員会

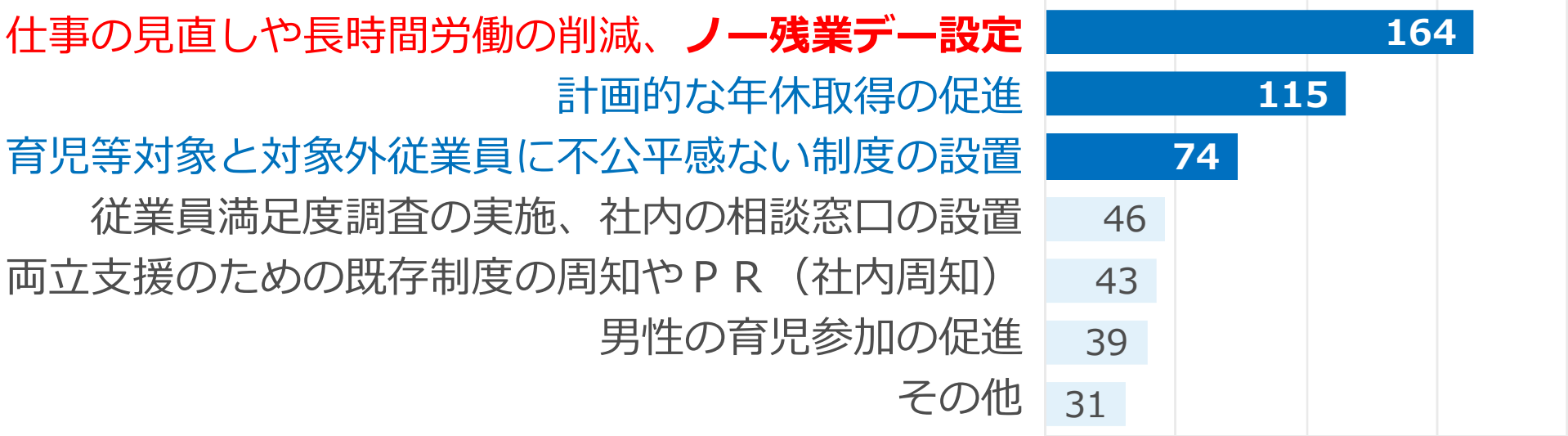
０．提供資料：男女共同参画に関するアンケートの実施　<回答抜粋>

Ⅵ.ワーク・ライフ・バランスについて

Q．ワーク・ライフ・バランスを行うことのデメリットは？（複数回答可）



Q．ワーク・ライフ・バランスを充実させていくために重要なことは？（〃）



０．提供資料：男女共同参画に関するアンケートの実施　<回答抜粋>

Ⅵ.ワーク・ライフ・バランスについて

Q．自由にご意見をお書きください

・憧れる上司、先輩がいない。毎日遅くまで仕事をしており、**心に遊びがない**。
・働けば働くほど成果も得られた高度成長期と**時代が違っている**のだから。

・**発注者からの想定外の要求**で、深夜残業や休日出勤が発生してしまう。
・全員が毎日定時退社を励行すると会社が回らないし、**仕事も終わらない**。
・発注者、受注者、下請け、等々の**業界関係者で統一的な一大改革**をしなければ、現状打破は出来ないと思う。

・仕事のやりがいは人それぞれ、時間がかかってもやるべき時やりたい時があるので、**WLBがただの時短では逆に仕事のモチベーションが下がる**。
・技術の研鑽への配慮を**どのようにバランスさせるかが重要**と考える。

・職場の雰囲気、**上司とのコミュニケーション**が大事である。

・業界内外の動きや他社の取組みの情報発信、セミナー開催など、**職場環境改善の啓発**になるような業界をあげて盛り上げてほしい。

０．提供資料：働きやすい職場環境の実現に向けたワークショップ開催

●ディスカッション発表

課題・現状

・上の人は働きすぎた。若い人が少ないから残業が多い？

・発注者から深夜電話で、さらに残業。待機命令もある。

・**災害対応**で、どうしても過重労働。

・**属人的**、職人魂、責任感が強く、残業が増える。

・勉強時間がとれない。**コミュニケーションの時間がとれない。**

・資格を取りたくない。資格を取ると責任と仕事が増える。

・30代が少なく間が空いていて**技術伝承がむつかしい**。**コミュニケーションがとりづらい**。

・今の若い人はＰＣで複雑な計算も簡単にする。ベテラン世代は、どうやって教えたらいいのかわからない。

・まわりに**女性の先輩がいない**。

・社内に産休育休をとった人がいない。周りの目が気になる。

・女性の継続的なキャリアアップができない。フォローアップができていない。

０．提供資料：働きやすい職場環境の実現に向けたワークショップ開催

●ディスカッション発表

課題を解決するには

・WLBは下からだけでなく、上からから変えていくべき。経営層への働きかけ。

・協会から発注者への働きかけ。

・**同業者、**発注者との**情報共有が必要**。

・特効薬はないが、**業界で継続して働きかけることが大切**。

・**働きやすい環境ブーム。残業ださいぞキャンペーン**。

・**建設コンサルタントの仕事の魅力を伝える**。→資格とる。仕事がんばる。

・テレビCMやドラマなど**業界イメージアップの施策**。→やる気。担い手確保。

・ちょっとしたロールモデルの紹介。

・他社の取組みを共有し、取入ながら**業界全体でかわっていく**。

・女性はまだ少なく、**会社を超えて交流**をもち、継続した働き方のイメージをもつ機会が継続できればよいと考える。

・女性の先輩をつくるのは無理なので**会社を超えた交流**。

０．提供資料：　（一社）建設コンサルタンツ協会の取組み

●平成28年度　建設コンサルタント白書から抜粋

3-1-2　生産性向上と就業環境の改善に向けての取組強化

（１）適正な工期設定、必要な工期の確保と納期の平準化

（２）受発注者協働での就業改善の促進

１）就業改善への取組

ａ）**ノー残業デー**

６月・１０月を実施強化月間とする

ｂ）**ウィークリースタンス**

①マンディ・ノーピリオド（月曜日は依頼の期限日としない）

②ウェンズディ・ホーム（水曜日は定時の帰宅を心がける）

③フライディ・ノーリクエスト（金曜日に依頼しない）

２）就業改善へと結びつく取組み

ａ）若手技術者、女性技術者の積極的な活用

ｂ）作業の効率化等、生産性向上の取組み

（３）品質向上３施策の活用

０．提供資料：　（一社）建設コンサルタンツ協会の取組み

●JCCAニュースから抜粋

6月と10月の毎水曜日に協会会員一斉ノー残業デーを実施します

　長年の懸案事項である建設コンサルタント業界の職場環境改善の一環として長時間労働を改善するため、「ノー残業デー　～優れた技術は、ココロのゆとりから～」を合言葉に、全会員企業による一斉ノー残業デーを下記のとおり実施します。

【実施内容】

　会員企業は、6月と10月の全ての水曜日に所定労働時間終了（定時退社時間）後15分以内に退社することを目指します。

【実施日】

6月と10月の全水曜日（全８回）
平成29年　6月7日、14日、21日、28日
　　10月4日、11日、18日、25日

働き方を考える　～ノー残業デーの過ごし方～

１．開催概要

２．就業時間の使い方

３．ノー残業デー過ごし方について

４．その他

５．まとめ

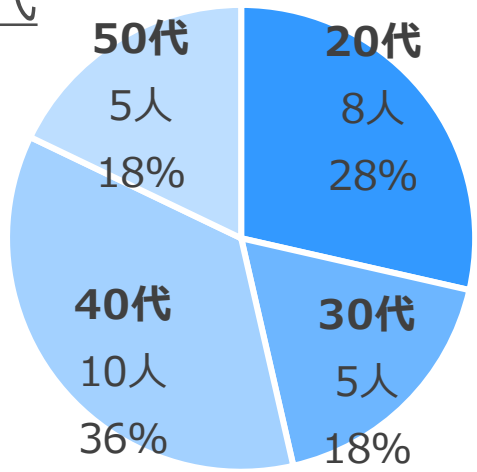
１．開催概要

- テーマ：『ケンコン働き方を考える』～ノー残業デーの過ごし方～
- 日　時：2017年７月27日（木）18:00～19:30
- 場　所：ドーンセンター　大会議室
- スケジュール：

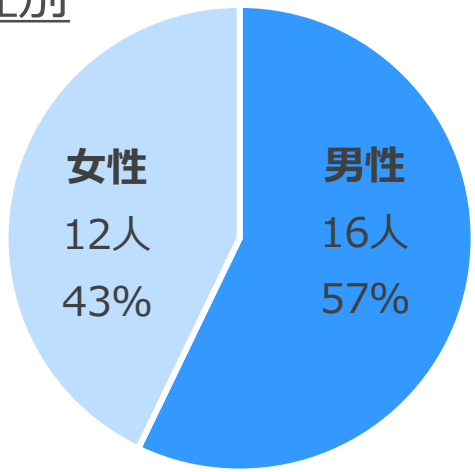
・開会説明
・グループワーク・発表
　～就業時間の使い方について～
　　・個人やチームで工夫していることはありますか？
　　・会社の取組はどのようなものがありますか？
・グループワーク・発表
　～ノー残業デー過ごし方について～
　　・交流イベントや勉強会など
・講評

●参加者の属性

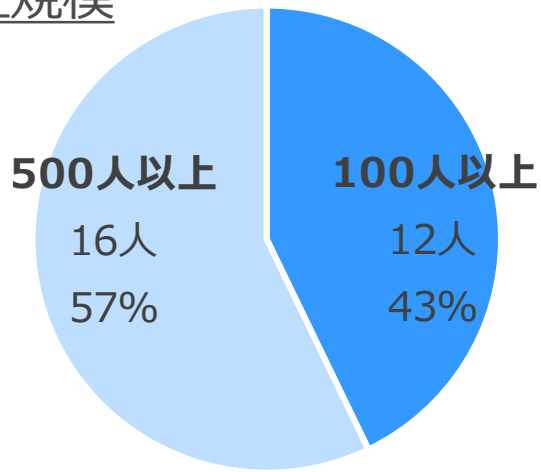
年代



性別



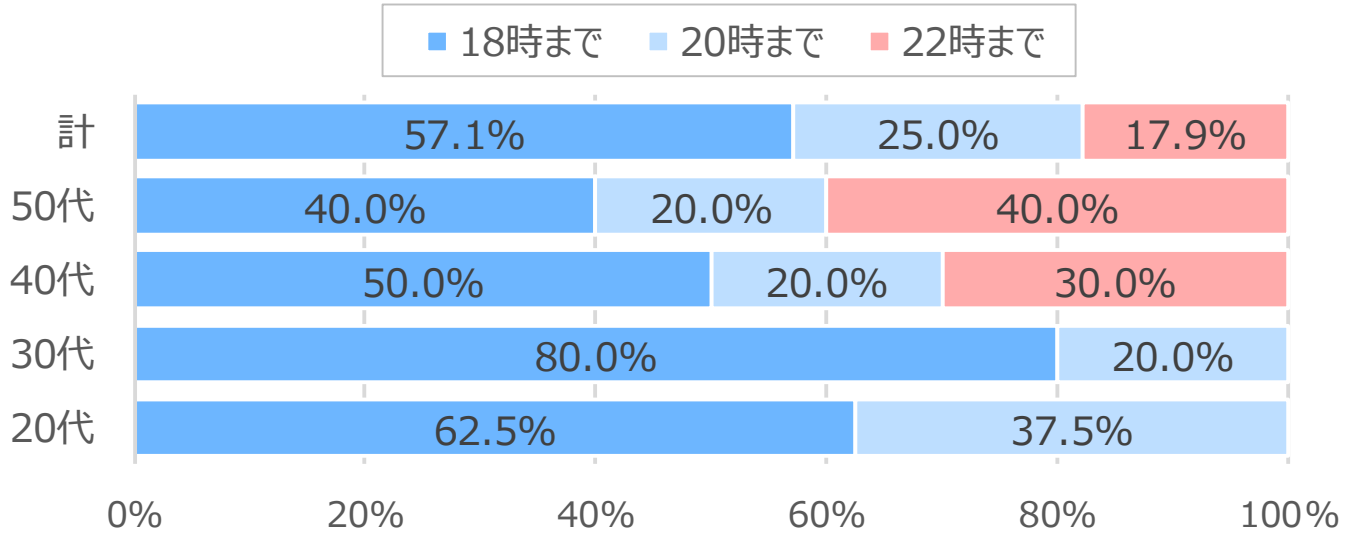
会社規模



		20代	30代	40代	50代	計
性別	男性	4人	2人	7人	3人	16人
	女性	4人	3人	3人	2人	12人
	計	8人	5人	10人	5人	28人
会社規模	100人以上	6人	3人	1人	2人	12人
	500人以上	2人	2人	9人	3人	16人
	計	8人	5人	10人	5人	28人

●7/26水曜日の帰宅状況

年代別



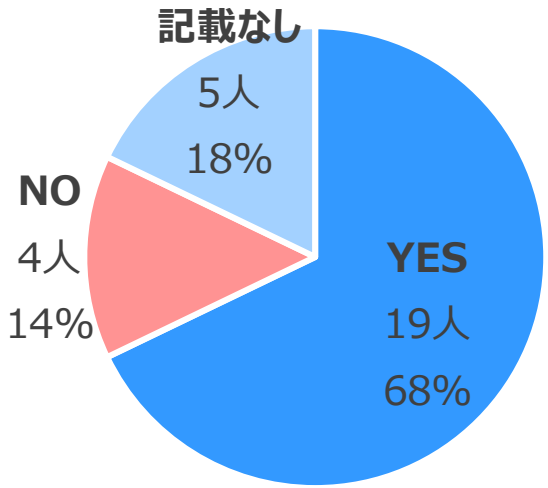
		昨日7/26の帰宅時間				ノー残業デー、帰れていますか？			
		18時まで	20時まで	22時まで	計	Y	N	記載なし	計
会社規模	100人以上	7人	3人	2人	12人	7人	2人	3人	12人
	500人以上	9人	4人	3人	16人	12人	2人	2人	16人
	計	16人	7人	5人	28人	19人	4人	5人	28人
性別	男性	5人	6人	5人	16人	8人	4人	4人	16人
	女性	11人	1人		12人	11人		1人	12人
	計	16人	7人	5人	28人	19人	4人	5人	28人
年代	20代	5人	3人		8人	6人		2人	8人
	30代	4人	1人		5人	5人			5人
	40代	5人	2人	3人	10人	6人	2人	2人	10人
	50代	2人	1人	2人	5人	2人	2人	1人	5人
	計	16人	7人	5人	28人	8人	4人	3人	15人

2．就業時間の使い方　＜ワーク・当日アンケート＞

●現状

・毎水曜日がノー残業デイ
・毎週金曜日ノー残業デイ実施（自部署のみ）
・会社としてのノー残業デーの取り組みはない
・グループ毎で行っており、実施できている所とそうでない所がある。
・グループによって違う。・道路Gが帰れない
・技術の方と庶務との違い。
・上司や発注者による
・ノルマが多いので帰れない
・ 30代が少ない（相談できる人がいない）
・上司より先に帰りにくい
・上司に話しかけにくい
・プラスアルファ仕事は残業になる。
・ほぼ７時に帰れている
・今後、取り組んでいく

ノー残業デー 帰れていますか？



2．就業時間の使い方　＜ワーク・当日アンケート＞

●ノー残業への取組み（１）

就業

・水曜日は就業時間が30分早く終わる
・早朝残業（AM8時まで）に割増手当がある。
・早朝残業の活用
・技術部は休日をフレキシブルに設定できる。
・特になし（比較的早く帰れているため）

アナウンス

・ノー残業デーのポスター掲示
・メール署名欄にノー残業デー実施を記載してアピール
・一斉メールでノー残業デーを周知する
・朝夕、ノー残業デイを知らせるメールが全社に配信される
・朝礼で「ノー残業デーに向けて」周知する
・朝から残業しないことを宣言している
・ノー残業デーの日にはお知らせのアナウンスが流れる
・蛍の光（六甲おろし）が流れる。
・社長、総務、上司の巡回・呼びかけ
・電気を消す

２．就業時間の使い方　＜ワーク・当日アンケート＞

●ノー残業への取組み（２）

時間管理1

・時間管理はタイムカード
・残業時間を一括管理し、指導している。
・照明とパソコンを強制消灯
・残業時間にはパソコンがロックされ、パスワードが必要となる。
・９時頃パソコン強制シャットダウン
・電話をシャットアウト、取り次ぎができないようにする。
・1時間の集中タイム（11~12時）には社内協議をせず、電話をかけない。
・週１回のグループミーティング
・１週間ごとのグループ員の工程表作成
・若手はチームリーダーのもと、工程表を作成
・工程表を自分で作成
・タスク管理、スケジュール管理
・最初に段取り、終わりを決める
・時間を決めて働く。・ある程度時間を決めてやる（集中して）

２．就業時間の使い方　＜ワーク・当日アンケート＞

●ノー残業への取組み（３）

時間管理2

・１時間毎、90分毎にスマホアラーム→時間を意識するようにしている。・集中する
・朝少しだけ早く出勤し、準備を始める
・朝に１日の計画を立て、スケジュールを確認
・朝に今日やらなければならない仕事を書き出して、重要順に並べて取り組む

体制

・週１回のグループミーティングで全員の作業内容を確認→分担
・グループでの調整会議。ミーティング。・段取りよい打合せ
・手分けをすることで、分担をしています
・2人1組で仕事を行う。
・報連相をまとめて行う
・手戻りがないように協議とスケジュール管理を行う
・部員が仕事でなやんでいないか？声かけ
・一般職は技術の人が早く帰れるように手伝う。
・自分は帰れているので、上の人の仕事が減らせるように積極的に手伝う。出来ることを増やす。

２．就業時間の使い方　＜ワーク・当日アンケート＞

●ノー残業への取組み（４）

体制

・ＩＣＴによる効率化
・上司が率先して残業を減らしている。
・早く帰りますと帰れる人を一人づつ増やしていく。
・帰れる人はさっと帰る。
・前日に済ませられる仕事は行う（事前にミーティングをする）
・適宜の断捨離
・仕事が残っていてもしょうがないと帰る

時間外活動

・ノー残業デーにイベントを実施
・（残業時間に）部活動の実施
・年２回（6月、10月）音楽サークルによるライブを行う
・音楽会
・飲みに誘う。居酒屋から電話。

その他

・孤独感を和らげるレイアウト
・会社でコミドリ

3．ノー残業デー過ごし方について　＜ワーク・当日アンケート＞

●建コンでのイベント（1）

スポーツ

建コン主催のスポーツ大会
運動会、スポーツイベント
深夜に野球大会（京セラドームで）
野球などのクラブ活動。
野球教室、建コン野球・合同飲み会
野球観戦イベント、スポーツ観戦
大阪城でランニングイベント
ウォーキング、ノルディックウォーク、
トレラン、マラニック
ゴルフ、ゴルフレッスン
サッカー、フットサル
ヨガ、ラクロス、ボーリング大会
建コンハンドボールチーム
素人でもできるスポーツ大会

共通の趣味

カメラ、建コン写真コンテスト応募
絵（水彩）ねこ、絵画談義で飲む
趣味を見せ合って語らう
映画、ライブ、おっかけ、音楽
舞台、落語、歌舞伎等の観賞会

飲む食べる

お見合いイベント
飲み会、ビアガーデンで飲み会
時短料理を作って食べる会
スイーツを食べに行くイベント
お肉を食べるだけのイベント

3．ノー残業デー過ごし方について　＜ワーク・当日アンケート＞

●建コンでのイベント（2）

大人の遠足

大阪を案内・観光するイベント
建コン主催パブリックビューイング
ブラタモリ(的な)イベント
歴史探訪、また自転車での探訪、観光
土木遺産めぐり、行基のイベント
大阪の夜景、たまには海に足つけて
出身地など共通のくくりでのイベント
街歩き（グルメや観光）、遠足
酒蔵などで日本酒を飲む会

家族参加イベント

橋梁などの設計者が案内・解説を行う。
果物狩り、ランチ会、BBQ

勉強会

技術士試験、資格試験の指導など
見学会
英語等の勉強会

その他

気分転換
プレミアムフライデー　15時に帰りたい
建コン協会でサークル活動
平日が行きやすい
協会主催なら参加しやすい
・ノー残業デーの目的が家庭の時間を増やすことであれば、イベントは参加しない。残業を減らすことが目的なのか？

４．その他　＜当日アンケート＞

●その他：ご意見、ご相談、疑問など

・名前を伏せて、なぜ帰れないか、帰りづらいかの理由を収集して公表
・この業界での女性の働き方についてざっくばらんに話し合う場がほしい
・残業減らしたい、業界全体で
・働き方改革に係るアイテム
・他社の取り組みを一覧にしてほしい
・時短は進んでいますか？手法を教えてください
・技術職早く帰りたいが帰れない。帰ると翌日以降の負担が増えるジレンマ。
・色々な人の対処方法を聞かせていただければ。
・帰社しにくい若手を、気にせず退社させるために行っていること
・コミュニケーションをとるために行っていることは何ですか
・女性のライフサイクルと建設コンサルタントという仕事について（特に同年代の人の）他社の方の話を聞きたい
・仕事の効率的な取り組み
・朝礼等、会社によって様々な取り組みがあることがわかった

5．まとめ

●ノー残業デーへの取組

・就業への取組として、早朝残業（AM8時まで）に割増手当、休日をフレキシブルに設定、パソコンの強制シャットダウン、集中タイム、などを施行している企業が見受けられた。
・多く意見のあった取組は、ノー残業デーの周知、ミーティング実施によるスケジュール管理および調整であった。
・時間の使い方として、メリハリをつける、集中するための工夫が見られた。

●建コンイベントについて

・プレミアムフライデー　15時に帰りたい。
・業界全体での取り組みが必要か。
・早く帰りたいが帰れない、他社の話を聞きたい。取組みを知りたい。
・女性の働き方について、ざっくばらんに話したい、聞きたい。

5．まとめ

●今後の取組み

　キーワードとして、今までの活動を通して、業界全体で働きかけや取組みが必要、他社の事例を知りたい、若手、コミュニケーションなどがあげられる。今後の取組として、次について継続し取組み検討する。

- 業界全体での取組み・施策の提唱
- 業界内外の取組や施策の情報提供および共有できる場の提供
- 若手や女性が少数企業も多く、コミュニケーションを取れる場の提供